

(4) 検証授業の分析と考察**考察の視点**

本研究では、コミュニケーション能力の素地を養うことを目指した授業を実践して、「心をつなぐ活動」を仕組む手立てを工夫した研究をしてきました。この手立ての有効性について、授業実践に示した単元の授業を基に、以下の2点の視点に基づいて考察します。児童の変容は、事前事後の外国語活動についてのアンケートの結果、毎時の振り返りカードの自己評価や記述内容、授業中の行動・発言観察、単元後の感想の記述、作成した「友達 Book」の記述等の授業記録から見取ります。

視点

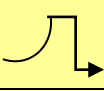

ア 言語に関する気付きをもたせ、外国語に慣れ親しませることができたか

イ 「心をつなぐ活動」で、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきたか

ア 言語に関する気付きをもたせ、外国語に慣れ親しませることができたか

3つの段階の『『きく』活動』の違いを意識して活動を仕組むと、児童は、新しい英語表現に出会う時に、音や声を耳で感じ取ることからスタートし【聞く活動】、次に注意深く耳を傾けて英語の発音やイントネーション等に気を付けて聴くこと【聴く活動】を体験していきました。資料6の下線部の記述のように、児童は、注意深く聴くことによって、外来語と英語の発音やイントネーション、複数形の表現の違いや、言葉の面白さに気付いていったことがうかがえます。それが、「言語や文化への気付き」につながっていったと考えます。

言語や文化への気付きに関する振り返りの記述

- ・リンゴをカタカナで書くと「アップル」でも、「アッポー」や「アポウ」「アポオ」と聞こえる。
(外来語と英語の発音の違いに気付いている)
- ・「アッポー」などの発音をする時に、数が違うと発音などがびみょうに違うことが新しく分かりました。最後に小さな「ス」などがついていたみたいでした。(複数形の表現の違いに気付いている)
- ・同じ言葉でも、発音の仕方や口の開け方、声の大きさなどでいろいろな音が違ってくるので、面白いなと思いました。(日本語と英語の違いに気付いている)
- ・同じ言葉や英語でも、発音が違うといろいろな言葉に聞こえて面白いなと思いました。(日本語と英語の違いに気付いている)
- ・質問する言い方とそれに答える言い方を教えてもらいました。答える時はどっちも「アイ」がついていることに気付きました。(表現に注意をして聞いている)
- ・「バナナ」が日本語といっしょだと思いました。でも、発音は英語がで、日本語は、でした。(イントネーションの違いに気付いている)

資料6 「言語や文化への気付き」に関する児童の振り返りの記述

表1 児童の振り返りによる自己評価

児童の振り返りによ

る自己評価を見ると、よく聴くことで、全員が色や形が分かったと答えました。しかし、英語を使って自分で話す

	よくできた	できた	あまりできなかった
英語をよく聞き、どの色や形かが分かりましたか。	29人	1人	0人
英語を使ってインタビューをしたり答えたりしましたか。	24人	4人	0人 (1人欠席)

活動になると、「よくできた」より「できた」の人数が3人増えています。聞いて理解することはできて、アウトプットする活動にはまだ自信がない様子が見えます（表1）。

外国語活動アンケート(5年生2クラス60人に実施)を見ると、以上の手立てをとってきたことにより、3つの質問項目における数値が事後に伸びたことがわかります。図6の①では、注意深く「聴く」ことで、話の大体が分かると前向きに捉えている児童が増えました。また、③では、「何とか伝えることができる」項目で、「とてもそう思う」と答えた児童が7%から69%に大きく伸びています。相手が自分の言うことに耳を傾けてくれるという安心感をもって、相手に向き合い伝えようとする姿勢をもったと考えられます。その結果、資料7のように、自然に外国語に慣れ親しんでいる様子が見えます。

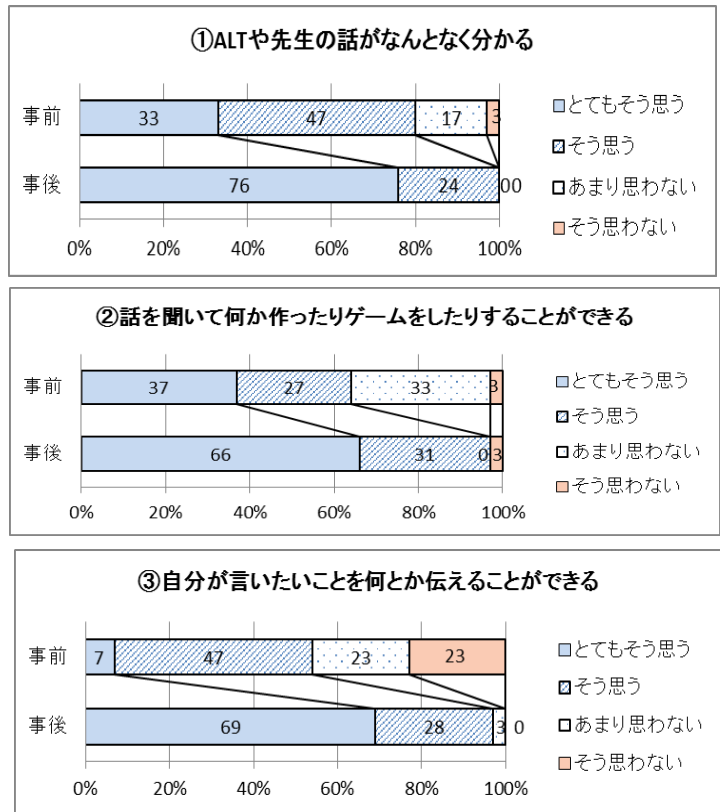


図6 外国語活動アンケート(5年生2クラス60人に実施)

外国語への慣れ親しみに関する振り返りの記述

・ いつの間にか知らないうちに英語を少ししゃべれるようになっていたので、びっくりしました。だから、そんなに気を付けなくても英語はしゃべれるんだと思いました。

資料7「外国語への慣れ親しみ」に関する児童の振り返りの記述

また、児童の行動を観察すると、1時目の授業の算数と関連した内容では、三角形の数や大きさを考えて答えたり、三角形に見える形さがし等をしたりしながら、自然に“triangle”という英語表現を数多く口にしていました。同じ形の三角定規を2つ組み合わせると、また三角形になるという下学年の算数の知識にも触れて、学びのつながりをもたせながら活動させることができました。他教科や既習事項、日常生活と関連させた活動は、話の内容を理解するときの手段となったと考えます。

以上のことから、言語に関する気付きをもたせ、外国語に慣れ親しませることができたと考えます。

イ 「心をつなぐ活動」で、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきたか

外国語活動に安心して取り組ませるために、単元前に「目指す姿」について気付かせていく時間を設けたことで、資料8の児童の感想を見ると、不安感をもっていた児童も自分にもできそうだという気持ちをもって学習をスタートさせることができたように思います。

- ・私は、外国語活動は、英語がペラペラ話せることだと思っていたけれど、グッドコミュニケーションをすることや、少しでも分かれば大丈夫ということを知って、私でもできそうと思いました。外国語活動はとても楽しいです。理由は、分かりやすいし、聞いておぼえられるからです。

資料 8 単元後の児童の感想

相手のことを考え、答えを予想しながら尋ねる活動【訊く活動】の場で児童の行動を観察すると、相手の答えを受けて、その理由を訊いている姿も見られました。また、資料 9 の下線部のように、相手とのこれまでのかかわりを思い出しながら、「これが好きだろう」などと予想をしてから訊いていたことが分かります。そして、新たな発見をして相手に対する関心を高め、更にかかわろうとしたり、友達が自分のことを聞いてくれていることに喜びを感じていたりする記述があります。これらの児童の姿は、自分のことを伝え、相手のことを知ることで、人とかかわることを楽しんでいる姿だと考えます。

コミュニケーションを図ろうとする態度に関する振り返りの記述

- ・友達は犬が好きだと思っていたけれど、うさぎも好きだということは知らなかったので友達のことをもっと知ることができた。授業以外でも、友達に積極的に話しかけて、もっといろんなことが知りたい。
- ・友達が一生懸命聞いてくれたのでうれしい。
- ・インタビューでは、友達の顔を見てはっきり質問できてよかった。

資料 9 「コミュニケーションを図ろうとする態度」に関する児童の振り返りの記述

また、「聞き方あいうえお」等を意識して相手とのコミュニケーション活動を体験していくことで、資料 10 の下線部のように、児童は、相手の行動に注目し、丁寧なかかわり方の視点に気付いている様子がうかがえます。教育活動全体で意識させていこうとしている「聞き方あいうえお」等の活用で、外国語活動の時間が中心となってコミュニケーション活動を体験させていくことができるのではないかと考えます。外国語活動の中で丁寧に活用していくことで、この体験がまた、各教科の指導にもつながっていくものと考えられます。

授業の中では、目標を確認し、「目指す姿」を捉えて児童に紹介しました。そうすることで、徐々に外国語活動での「目指す姿」が児童の中に認識されていき、友達の姿の中にもそれを見つけるようになりました。資料 10 の下線部を見ると、相手とつながる良さを感じていったことがうかがえます。

コミュニケーションを図ろうとする態度に関する振り返りの記述

- ・友達が笑顔で質問してくるのがすごいなと思いました。私も友達みたいに言いたいです。
- ・友達が、「聞き方あいうえお」の通りに聞いてくれたり、話す時は話し方「かきくけこ」の通りに話したりしていたので、すごいなと思いました。私も友達のようにしたいなと思いました。
- ・私が好きなものを伝えると、友達が「当たってた！」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。(自分の言うことを聞いて受け止め、反応している友達の行動に対して喜びを感じている)

資料 10 「コミュニケーションを図ろうとする態度」に関する児童の振り返りの記述

外国語活動アンケートを見ると、次頁図 7 の④で外国語活動の時間は楽しいと答えた児童は事前に 90%だったのが、事後には全員が楽しいと答えました。中学校へ進学するときに苦手意識をもたせないように、この意識をもたせ続けたいものです。児童には、最初は英語を覚えなければなら

いという意識もありましたが、「相手のことを知ることが楽しい」「聞いたり伝えたりすることが楽しい」という割合が大きく伸びたことから、「目指す姿」を意識して活動し、心をつなぐ活動自体に価値を感じていると思われま。単元前に不安感を抱いていた児童も認識が変わっていき、「めざす姿」に迫る自分の姿を評価していくようになったと考えられます。

また、完成した「友達 Book」の作品には、英語を使って聞き取った相手の好みのものに加え、相手に向けてのメッセージも書いています。友達と向き合って情報を集め、それを受け止めて自分の思いを返しています。人とかかわっていく体験を重ね、友達の思いを知って寄り添う児童の姿が見えました(資料 10)。

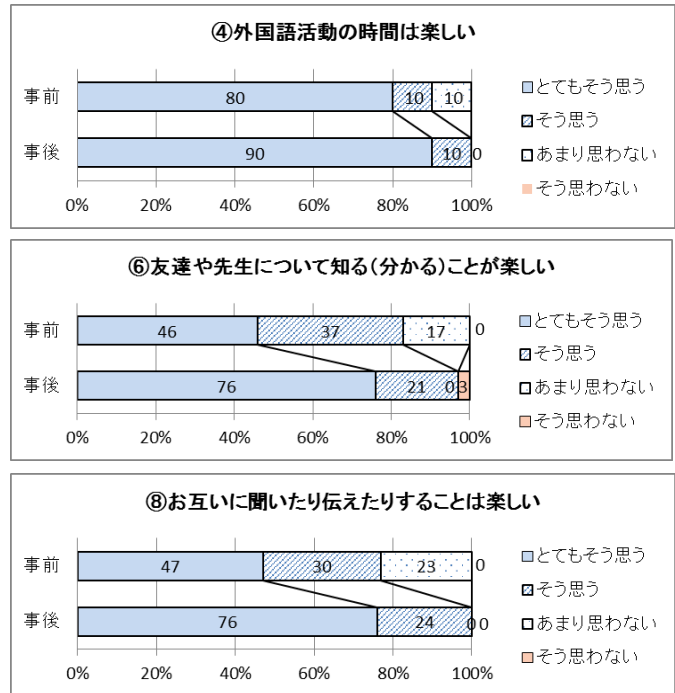


図 7 外国語活動アンケート(5年生 2クラス 60 人に実施)

- ・〇さんはゆっくり回るコーヒーカップが好きなんだね。私は迫力のあるジェットコースターが好きだよ。(友達の思いを受け止め、自分の考えを伝えている。)
- ・あじさいってきれいだよね。私はひまわりが好きだな。あじさいもひまわりもとってもきれいに咲くよね。(友達の思いを受け止め、自分の考えと共に肯定している。)
- ・サッカー上手だよ。これからはがんばってね。(日頃の相手の様子を思い浮かべ、応援メッセージを伝えている。)



資料 10 友達へのメッセージ

そして、外国語活動で学んだ人とのかかわり方を他教科での学習場面や日常生活の中でも生かしていくことができると良いと考えます。以下に、人とかかわって新たな発見をし、その後、児童が感じたことを紹介します(資料 11)。

- ・日本語でも、方言があって(分かりにくくて)も、「何となく分かった」ことを生かしてがんばりたい。(相手を理解しようという気持ちをもって、自分から進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲の高まり)
- ・今日、隣の人と、何が好きかを伝え合いました。友達は牛乳が好きだと予想しました。でも、反対でした。なぜと訊くと、「ちょっと苦いから」でした。給食の時間ががんばっているのだなと思いました。(友達ががんばっていた姿を知り、思いに寄り添う)

資料 11 単元後の児童の感想

以上のことから、「目指す姿」を共有し、価値付けていくことが、児童がコミュニケーションの楽しさを感じ、進んでコミュニケーションを図ろうとするようになることに有効であると考えます。

抽出児の変容

毎時の振り返りカードの児童の自己評価(○よくできた △ふつう ×できなかった)と記述部分、事前アンケート、行動観察等で変容を見ました。振り返りの言葉は、「目指す姿」に照らし合わせ、観点別に分類して分析しました。

- ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ② 外国語への慣れ親しみ
- ③ 言語や文化に関する気付き

(7) A児……進んで友達とかかわりながら笑顔で楽しく活動し、友達の良さを見つけ、受け入れようとする。外国語の音声を聞いて、積極的に真似をする。

表 2 A児の毎時間の振り返りの変容

	1時目	2時目	3時目	4時目
コミュニケーション	○	○	○	○
慣れ親しみ	○	△	○	○
言語や文化への気付き	○	○	○	○
振り返りカード記述 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語への慣れ親しみ ③言語や文化に関する気付き	レッド、ブルー、グリーン、イエローの言葉を言うときに、 <u>②ALTの先生の口を見て言う</u> と、外国人みたいに言えました。今度からもALTの <u>②先生の口を見て真似して覚えた</u> い。	隣の友達とはずかしかつたけど、 <u>①且を合わせることができたし、①質問も出して友達から答えが返ってきた。</u> 友達とぼくの好きなものがいっしょでした。ちょっとうれしい。	イエスカノーで答えるとき、友達が <u>②電子黒板の発音と同じようにまねを</u> していいと思いました。友達はスライダーを「とっても好き」かと思っただけで「まあまあ好き」でした。声の大きさが大きかったから、 <u>①もっと好きな時はもっと大きな声なんだ</u> と思いました。	友達は、 swimming が好きだとわかりました。 <u>①Why?と聞いたら、「泳ぐのが好きだから」と</u> 答えました。サッカーなどはいっぱい動くから嫌いと言っていました。 <u>①予想通り</u> でした。
単元前のA児の言葉：ゲームで勝ったり競争をしたりするのはとても好きです。 単元後のA児の感想：相手にも僕の好きなものなどが伝わり、覚えてくれるから、伝え合うことは楽しい。				

振り返りには、①の観点が5つ、②の観点が3つありました。友達とかかわって情報のやり取りをすることを楽しんでいるのがうかがえます。インタビューをする時は、相手に向き合い笑顔でやりとりをしていました。質問の答えに対して“Why?”と理由を聞こうとしているところから、相手のことを予想して質問をし、もう一歩深く聞いてかかわろうという気持ちが感じられます。また、単元前には、ゲームの楽しさの方を強く感じていましたが、単元後には、相手と伝え合うことの楽しさの方が感じられるようになっています。

(イ) B児……英語を習っているから、得意だという意識がある。しかし、コミュニケーションへの関心の面では、進んで友達とかかわろうとすることには積極的ではない。

表 3 B児の毎時間の振り返りの変容

	1 時目	2 時目	3 時目	4 時目
コミュニケーション	△	○	○	○
慣れ親しみ	○	○	○	○
言語や文化への気付き	○	○	○	○
振り返りカード記述 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語への慣れ親しみ ③言語や文化に関する気付き	同じ言葉でも、 ③発音の仕方や口の開け方、声の大きさなどでいろいろ音が違ってくるので、面白いなと思いました。 「夏」のイメージカラーは③人それぞれ違うんだなと思った。ぼくは青だけど、黄や緑の人もいるので、びっくりした。	質問するときに、 ①Why?やI see.など言えたので良かった。答えるときは、①Me too.などと答えることができた。	先生の好きなものを予想した。けれども①予想は全部外れたけれどもとても楽しかった。ラッキーカードもはずれたけれど、①友だちの好きなものが分かった。	インタビューを①「聞き方あいうえお」で聞いたので良かった。インタビューをする時には、①「話し方「かきくけこ」でインタビューができて、隣の人にもインタビューを①聞いてくれたのでとってもうれしかった。
外国語活動アンケート 「自分が言いたいことを何とか伝えることができる」 4とてもそう思う 3そう思う 2あまり思わない 1そう思わない 単元前：B児の自己評価 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input checked="" type="radio"/> 4…… 自分は誰かに何かをそんなに伝えられない。 単元後：B児の自己評価 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input checked="" type="radio"/> 4…… 伝えることが得意。				
単元後のB児の感想：友達の好きなものや嫌いなものが簡単な英語で伝わるのでとてもいいと思う。 そして、友達ともっと仲良くなって、コミュニケーションをもっともっと深めたい。				

振り返りカードの記述部分を見ると、1時目には③の観点で書いていることから、注意深く英語表現を聴いて言語に関して気付きをもっているのが分かります。しかし、行動を観察すると、コミュニケーションをとることに 대해서는 苦手意識をもっていて、相手の目を見て話すことにちゅうちょしていました。しかし、B児は心をつなぐ活動を体験していくことで、2～4時間目の記述部分を見ると、人それぞれの違う思いを受け止めて相手に言葉を返していくことや、丁寧にかかわっていくことに喜びを感じるようになってきたことがうかがえます。振り返りには①に関する記述が7つ見られました。最初は英語を習っていて技能面のみを重視していた児童でしたが、友達とコミュニケーションをとることに関心をもち、伝えることに自信を持ち始めたと考えられます。

(ウ) C児……先生や友達とかかわることに消極的である。笑顔が少なく、相手に話しかけられても、自分から表現することが苦手なのか、かかわりをもとうとしなかった。事前アンケートの記述部分の記入も極端に少なく、一つだけ「外国語は苦手だから」と書いてあった。

表 4 C児の毎時間の振り返りの変容

	1 時目	2 時目	3 時目	4 時目
コミュニケーション	○	○	○	○
慣れ親しみ	△	○	△	○
言語や文化への気付き	○	○	○	○
振り返りカード記述 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語への慣れ親しみ ③言語や文化に関する気付き	外国語の② <u>歌がとてもおもしろかった</u> 。好きな果物を発表するために手を挙げた。	僕は、皆が好きな食べ物やきれいな食べ物① <u>分かった</u> のでよかった。最後に① <u>自分が思った</u> ことを言えたのでよかった。	外国語は③ <u>発音が</u> 違った。人気キャラクターの気持ちになって言いました。② <u>好きなものを言</u> えるようになりました。	友達の好きなアクションはジェットコースターだと分かりました。① <u>新しい</u> 発見ができました。隣の人のことが分かってよかった。
単元後のC児の感想：外国語活動では、今までよりも英語が話せるようになった。最近では、質問するときは何と言えばいいのかわかってきた。先生の言う言葉も何となく分かってきた。外国語活動のめあてはバッチリだと思った。				

事前の調査で、外国語活動に対する不安感を抱えていたことが分かったので、C児をよく見て、「めざす姿」を見つけた時に、数多くほめるようにしました。「話している相手に注目しているね」「うなずきながら聴いてるね」「英語の歌を真似して歌っているね」等、皆の前でほめることで、これでいいのだと考えるようになってきました。また、単元が始まる前にマイナスイメージをもっていた外国語活動に対して、単元に入る前に「目指す姿」に気付かせていく時間を設けたことで、安心感を得られたと思われます。その結果、1時目から前向きに活動しようとする姿が見られました。そして、①に関する気付きが増え、②に見られるように、自分から外国語を使ってやり取りをしたいと思うようになったのが分かります。3時目の授業終了後には、JTE のところに来て、自分から“What animals do you like?”と目を輝かせて尋ねてきました。進んで人とかかわろうとする気持ちが感じられました。次頁資料 12 のアンケートの変容からは、友達とのコミュニケーションを楽しむ様子がうかがえます。単元後の感想からも、外国語活動をする時の自分に自信をもち始めたのが分かります。

(I) D児……事前アンケートでは、「外国語を使った話はあまり分からない」と書いており、消極的な姿勢であった。次頁資料 12 の単元前のアンケート結果からも、外国語活動の時間は楽しいと答えてはいるが、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする活動に積極的ではないことが分かる。

表 5 D児の毎時間の振り返りの変容

	1 時目	2 時目	3 時目	4 時目
コミュニケーション	×	×	△	○
慣れ親しみ	△	×	△	○
言語や文化への気付き	×	△	△	○
振り返りカード記述	おもしろい歌やきれいな食べ物の② <u>英語が分かりま</u>	私はくもがきれいだけど、③ <u>友達とは</u> 違うことに気付き	友達Aと先生と友達Bは、③ <u>同じ食べ物</u> が好きだと言う	2つ、インタビューの予想が当たった。① <u>本当にこんな</u>

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語への慣れ親しみ ③言語や文化に関する気付き	<u>した。</u>	ました。	<u>ことが分かりまし</u> <u>た。</u>	<u>ことが好きなんだ</u> と思いました。怖い乗り物が好きだと思ったけど、友達に嫌いだということが分かって、 ① <u>ちょっと意外</u> でした。
単元後のD児の感想：おもしろいゲームや歌で英語を楽しく覚えることがうれしくて、自分がみんなと違っても、間違えても気にせずに、それができるといいということが分かった。				

「4つの部屋ゲーム」をしたときに、D児は友達の方に体を向け、友達の言うことに耳を傾けて聴いていた姿を捉え、素晴らしい「目指す姿」であることを全体に伝えました。資料12からも、コミュニケーション活動を苦手としていたことが分かるD児でしたが、相手に丁寧にかかわっていく姿を評価する声掛けを重ねていきました。そうすることで、それができている自分に自信をもち、相手に対する気持ちが出てきた様子が振り返りの記述からもうかがえます。また、資料12のアンケート8の質問では、評価が1から3に変わっています。その理由として、「みんなが話を聞いてくれるから」と書いていました。学級の中の一人ひとりの「訊く活動」が丁寧に行われていくようになってきたことで、自分が話すことに耳を傾けてくれることへの心地良さを感じている様子が見て取れます。

外国語活動アンケートの質問	C児		D児	
	単元前	単元後	単元前	単元後
1 ALTの先生や先生の話がなんとなく分かる	2	3	1	4
2 話を聞いて、何かを作ったりゲームをしたりすることができる	3	4	1	3
3 自分が言いたいことを何とか伝えることができる	1	3	1	3
4 外国語活動の時間は、楽しい	3	4	4	4
5 ゲームで勝ったり、競争したりすることが楽しい	4	4	1	2
6 友だちや先生について知る(分かる)ことが楽しい	3	4	1	4
7 友だちや先生といっしょに活動するのは楽しい	1	4	4	4
8 おたがいに聞いたり伝えたりすることは楽しい	1	4	1	3
9 日本と外国の生活や文化について知るのはおもしろい	2	3	1	4
10 外国の言葉について学ぶのはおもしろい	2	4	4	4

4 とてもそう思う 3 そう思う 2 あまり思わない 1 そう思わない

資料12 C児、D児の単元前後のアンケートの変容